

箱根町の外国人観光客調査

池島ゼミ
小銭・松村・山崎・長峰



・調査研究の概要

日本全体でインバウンド観光客が増加し、その経済効果やオーバーツーリズムの影響が懸念される中、箱根町を訪れた外国人観光客にアンケート調査を実施し、来訪者の視点から観光地としての課題を分析した。

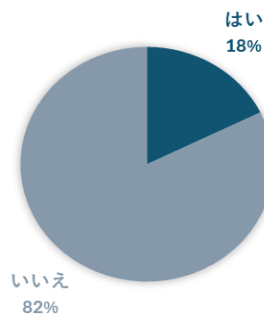
調査日	1月18日(土)
調査地	箱根湯本駅周辺、彫刻の森美術館
回答数	96件

・観光体験とオーバーツーリズム

アンケートの結果、箱根町でオーバーツーリズムを実感している観光客の割合は**20%未満**と低く、調査当日においては、多くの観光客が負の影響を認識していなかったことが分かった。

⇒一方で地域住民側が悪影響を受けていないかについても今後検証する必要がある。

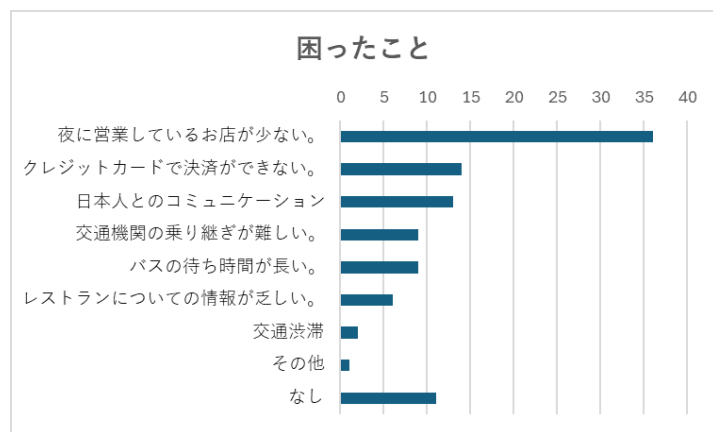
オーバーツーリズムの発生を感じるか



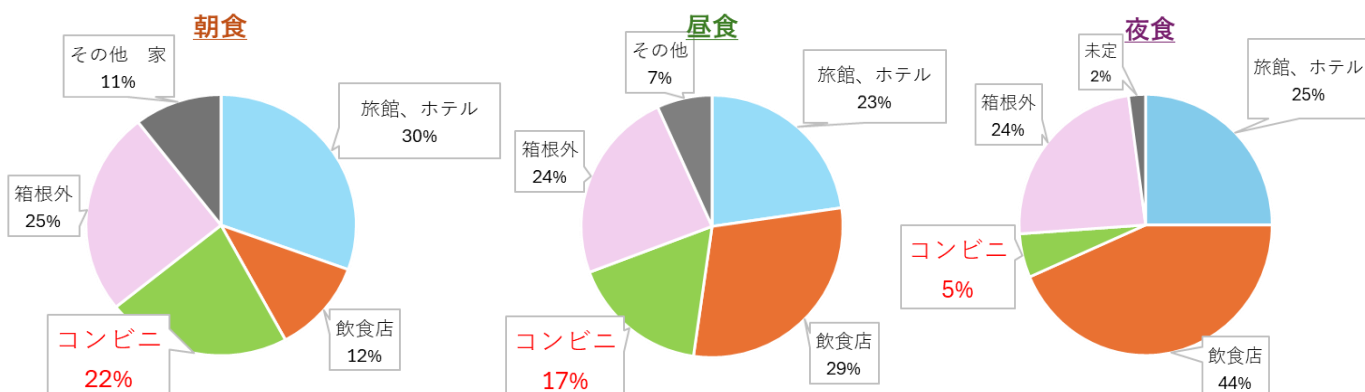
・調査結果に基づく箱根町の課題

・ 箱根観光で困ったことについての質問では、サービスの利便性に関する不満が多く挙げられ、その中でも特に**夜間営業を行っている店が少ない**ことに対する不満が多く寄せられた。

・ 朝食や昼食をコンビニで済ませる観光客が**約2割**に上っており、地域の飲食店の消費促進にさらなる工夫の余地があることが示唆される。



外国人観光客の飲食事情



箱根町の飲食店とフードロスの状況



池島ゼミ

齋藤・佐久間・白葉・山崎

①箱根の飲食店にアンケート調査実施

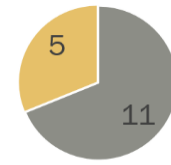
■概要

インバウンド増加による課題・フードロスの課題の有無を箱根湯本飲食店組合・仙石原飲食店組合の加盟飲食店16店舗にGoogleフォームにてアンケート調査を実施した。

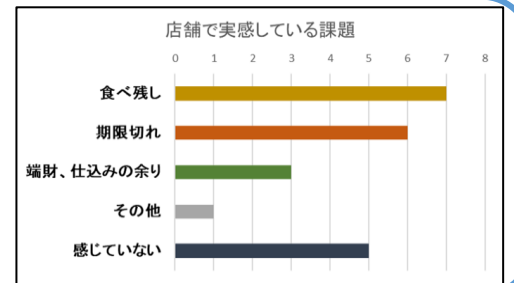
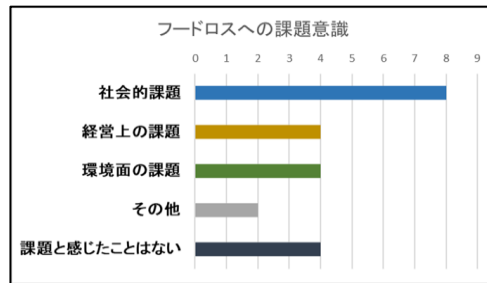
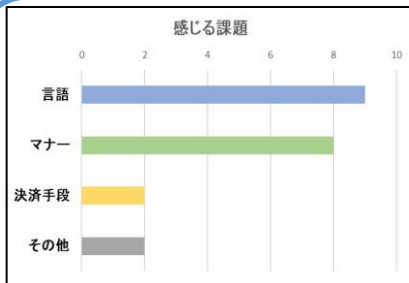
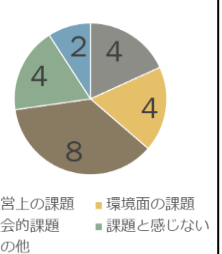
■調査結果

右のグラフのようになり、外国人観光客増加・フードロスとも約70%の店舗が課題を感じると回答した。以下の図より、外国人観光客増加による、言語・マナー面での課題を感じている店舗が多かった。また、フードロスを社会的課題と認識している店舗が多く、食べ残し・期限切れを課題と感じている店舗が多かった。

外国人観光客増加による課題を感じるか



フードロスによる課題を感じるか



②箱根の飲食店にヒアリング調査を実施

■概要

具体的な課題や実態について店舗に直接ヒアリング調査した。

■実施店舗

・中華料理 太原・Lucky's Cafe・ラーメン 蔵一・湯葉井 直吉・BOX BURGER



フードロスの状況

- ・全店舗**ほぼフードロスは**ない状態となっていた。
- ・正確な売り上げ予測がついていて、ロスが少なかった。
- ・メニュー削減や食料の端を再利用するなど工夫
- ・コスト削減や集客力効果といった**経営的観点から****フードロス対策**が導かれている。

インバウンドの影響

- ・決済方法や英語版メニューなど、どの店舗も**外国人観光客向けの対策が進んでいた。**
- ・言語面・マナー面のいずれも**大きな課題とはなっていないが**、言語面はジェスチャーに留まり、**高度な意思疎通までは至っていない**店舗も見受けられた。
- ・一部店舗では過去にマナー問題が見受けられたが、**近年は改善している**様子だった。

ターゲット層

- ・湯本近くの店舗は**観光客**が多く、仙石原近くの店舗は**地元客**も多い。
- ・客層を特に絞らず、**幅広い層がターゲット。**
- ・箱根が食に乏しいことを懸念。